

2017 土曜例会(1・21)

第 23 回 国際交流の集い開催

例年以上ににぎやかで、華やかに

1月21日のIIN土曜例会は、茨木市国際親善都市協会と茨木市など主催の「第23回国際交流の集い」と同日開催になったのを受け、参加・協力の例会という形で行われました。会場は茨木市立生涯学習センター・きらめきホール。JICAからの長期研修員27名と11月のJICAホームビジットに参加したメンバー、海外留学生数人など多くの外国人参加者が集い、例年になく華やかで、賑やかな集会になりました。IINからは30人ほどのメンバーが参加。着物の着付け、受付、餅つき、写真、JICA送迎アテンド、フロアでの通訳など、さまざまな関わりを持ちながら国際交流のひと時に貢献しました。

チアダンスで幕開け

幕開けは、早稲田摂陵高校チアダンス部生徒たちによる明るく、躍動的なダンスから。若林三雄・国際親善都市協会会長、福岡洋一・茨木市長の挨拶の後、「外国人による日本語スピーチ」がありました。タイ(2人)、ベトナム、コスタリカの4人の参加者たちが「歩み寄る国、タイと日本」「青春18切符の旅」などのタイトルで、日本での生活から感じた文化、習慣の違いなどについて語り、知り合うこと、親善の大切さを訴えました。



タイ舞踊

タイ舞踊では、着物姿のJICA研修員、スピーチ参加者、小さな子供まで壇上に上がり、タイのダンサーと一緒に踊りました。指や腕のしなやかで、繊細な動きはむずかしくても、見よう見まねで自分なりの踊りを楽しんでいました。

茨木高校生による英語プレゼン「私たちの国際交流」では、二年生は毎年台湾に旅行し、地元の高校生と交流していること、学内でのアンケート調査では、異文化交流において大切なことは、互いのバックグラウンドを知ることよりも、インディビジュアル



ル（個々人のつながり？）がより、大切だという結果にたどり着いた、などという発表がありました。

交流会

この後、交流会に移り、餅つきを楽しんだり、タイのグリーンカレーを食べながら歓談したり。餅つきでは、着物姿に変身した若い外国人たちが臆せず次々、挑戦。日本の伝統文化を体験しました。

ホールのコーナーや壁際では、科学体験ブース（早稲田摂陵中・高校）、折り紙ブース（同）、ネパールの KIMONO デザイン 展示ブース（福井高校）、外国文化体験ブース（実用日本語学習会）、それに IIN の活動記録の写真展示もあり、訪れた人たちの目を引きました。特に折り紙ブースでは新タイプの折り紙が紹介されており、外国人や日本の子供たちの人気を集めていました。



フィナーレの民謡民舞は“総踊り”の感。JICA、留学生、民謡グループ、心浮かれた一般参加者も加わり、ステージの上と下に分かれ、「九州炭鉱節」の替え歌にのって踊りました。「♪世界の国から茨木へ 集う交流 和やかに…」という歌詞。どの顔も笑顔でいっぱいでした。手振り、身振りの正確さなど気にとめず、それぞれの振りで踊る姿は愉快で、見事でした。

お礼の言葉

集いの後、研修生や留学生から以下のようなお礼の言葉が届きました。

Dear IIN

I thank you for inviting me to such a memorable event in Ibaraki city yesterday. I enjoyed the occasion for the beginning to the end. It was so nice and something not to forget. The gathering also gave me an opportunity to make more international friends.

It is my hope that next time you will invite me again and I will try to fix programs so that I don't miss.

まず全員が自己紹介



With kind regards
(C.)

It was a pleasure
meeting you
yesterday.

The day was really interesting and I had a lot of fun and enjoyed interacting with the nice people at the event. I would be very happy to come to your meeting and give a presentation anytime. Thank you so much for everything. Looking forward to our next meeting.

N A(Ms.) Kansai University Graduate school of Law (Egypt).

ミャンマーの女子留学生からはー

I had a great time yesterday and thank you for giving chance to participating Ibaraki International gathering. I know many Japanese and other countries culture in this events and I am happy and proud to wear Japanese Kimono.

I fill application for Lunch Meeting and sent it to Mr.U. I will come without fail. Thank you for inviting me. See you.

JICA から IIN 委員長宛にも次のようなお礼の言葉が。

「たくさんの研修員がお世話になりました。お互い初めて会う研修員もいて、彼らの間での交流と市民の方との交流、日本文化の体験と、それぞれ大いに楽しむことが出来ました。駅での集合時と復路の送迎も IIN の皆さまのおかげでスムーズに移動することが出来ました。大変、感謝しております」。

IIN 会員 着付け、餅づくりなどに奮闘



寒さの中、餅作りに懸命の IIN 会員たち

IIN の皆さんは交流と同時にカゲでも奮闘。

外国人に人気の着物。その着付けのため担当者は昨年から時々、集まって練習を続けており今回、その成果がかなり現れたようです。

「着付け体験に来られた外国人の皆さんがとても喜んで下さり、うれしそうに何枚も写真を撮られていました。女性は長い髪を上手に自分で結び上げたり。皆さんとても良くお似合いです！」と着付け班の一人は話していました。



親善の象徴、ペットボトル・トラス

餅作りは吹きさらしの寒い駐車場での作業。会員の一人は「忙しくて交流の機会をほとんど持てなかったけれど、外国の人たちが柔らかいお餅を食べて、タイのグリーンカレーを味見して、満足そうだったのがうれしかった」。受付係も長時間、次々訪れる参加者をさばっていました。

ペットボトルのトラス

集いの間、ホールの中央に早稲田摂陵中・高生が作ったペットボトルで作られたトラス（接

点がすべて回転自在の結合構造物) があり、交流会の最後に指導した先生がトラスのジョイントを一本外しただけで全体が崩れ落ちました。

「一つを外しただけで全体が壊れる。世界は全部がつながっており、それぞれが支え合ってこそ、平和に存続できる。そういう意図を込めて作りました」と先生は話していました。

アンケート

参加者に求めたアンケートから。

「国際交流を通じた人と人との交流っていいなあ、と思いました。ネットでの人とつながるのもいいですが、やっぱり **face to face** が一番だと実感しました」。

「タイの伝統的踊りが美しく、感動すると同時に、日本の三味線や踊りの美しさや優美さを誇らしく思いました」。

「素晴らしい会に出席させて頂き、ありがとうございました。お陰様で久しぶりに錆びた刀の英語を話せました」。



子供たちと親でにぎわう折り紙コーナー

閉会を迎えくつろぐ外国人たち



「アフリカから参加の国の場所を聞かれた父親が悪戦苦闘されていた姿がほほえましかった」。

今回の集いでは、国際化時代を反映してか、子供連れの参加も目立ち、世代、国籍、言葉を越えての交流が深まりつつあることを感じさせました。